２０２０年１２月１３日（日）
銀座教会　主日家庭礼拝
待降節第３主日

礼拝招詞「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。
主はその民を訪れて解放し、我らのために救いの角を、僕ダビデの家から起こされた。
これは我らの神の憐みの心による。この憐みによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」
ルカによる福音書1章68-69；78-79節

主の祈り

使徒信条　我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、
イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、
処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、
全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、
生ける者と死ねる者とを審きたまわん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、
身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。　アーメン。

讃美歌　９６　エサイの根より　生いいでたる

聖　書　ルカによる福音書１章５７～６６節

牧会祈祷

天の父なる神様、2020年の待降節第3主日が与えられました幸いを感謝いたします。クリスマスを指折り数える私たちです。これまでのあなたの導きに感謝します。これからのあなたの導きに感謝します。主をお迎えすることができるように、私たちの心を掃き清めてください。私たちの内にある恐れと不安を取り去り、平安をお与えください。家庭にある兄弟姉妹と共に、平和の主を喜び迎えることができますように。今日の礼拝をそのための確かな備えの時としてお用いください。
主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

説　教　「神は慈しみ深い」　　伝道師　藤田　健太

マタイとルカによる福音書は様々な人物と神様の間のドラマによってキリストがお生まれになるクリスマスの喜びを伝えます。福音書記者ルカはクリスマスの重要な登場人物の一人に洗礼者と呼ばれるヨハネがいたことを伝えます。ルカによる福音書では、洗礼者ヨハネと主イエス・キリストの誕生は互いに切り離すことができない「対」の出来事として語られています。

新約聖書の中心に置かれるのが主イエス・キリストであるならば、ヨハネは神様とイスラエルの間に結ばれた古き契約を象徴する人物です。ヨハネの出自に関しては、旧約聖書に特有な幾つものモティーフによって語られています。第一に、ヨハネは古き「祭司」の家系に生を受けます。父親ザカリアはアビヤ組の祭司で、歴代誌下24章10節に登場する祭司の末裔でありました。母親のエリサベトはイスラエル史上最初の祭司であるアロンの家の娘であったとされます。出エジプトの出来事において、神の人モーセの「舌」となり、神様の御意志を取り次いだアロンのように、主イエス・キリストの先鞭となり、主イエス・キリストの道を備える決定的な役割がヨハネに与えられました。第二に、彼の父親であるザカリヤは主の「掟」と「定め」をすべて守る、非の打ちどころのない祭司であったことが伝えられます(1:6)。第三に、旧約の伝統に従い、ザカリヤは息子が生まれた「八日目」に「割礼」を施します(1:59)。「祭司」、「律法」、「割礼」といった旧約聖書以来の伝統の中で祝福を受け、洗礼者ヨハネは主イエス・キリストに先立つこと数カ月前に生を受けました。成長したヨハネは神様の御国の到来を前にして、決定的な「悔い改め」を人々に説く預言者であり、旧約聖書に登場する預言者「エリヤ」の再来と目されました(1:17)。福音書記者ルカはこのように旧約聖書の世界を象徴するヨハネと主イエス・キリストの誕生を切り離すことのできない出来事として描きました。神様の古き契約と新しい契約を切り離して考えることはできません。神様の「慈しみ」は、旧約の伝統の内に約束され、与えられた御子により豊かな実を結ぶことになりました。

エリサベトが男の子を産むと、近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに「慈しまれた」と聞いて喜び合いました。人々は、生まれてきた子供に神様の「慈しみ」を見とめたのでした。彼らは父親の名をとって、その子に「ザカリヤ」の名を与えようとしますが、母親は頑なに彼らの提案を受け入れようとしません。生まれてきた子供は「ヨハネ」と名付けなければいけないと言い張ります。ヨハネという名前には、「神は慈しみ深い」という意味があるとされます。生まれてきた子どもに神様の「慈しみ」を見つめた結果がそこにありました。神様が長きにわたってイスラエルの民の上に注がれ続けた「慈しみ」が洗礼者の名前そのものとされたのでした。祭司ザカリヤの「沈黙」と「賛美」は、民の苦難の歴史と、その中で神様の「慈しみ」を見出した民の喜びの歴史そのものを象徴するという印象を受けます。

洗礼者ヨハネは、悔改めを迫る、火のように燃える激しい預言者に成長します。ヨハネは荒れ野で叫ぶ神の声そのものです。人々に向かって「蝮の子ら」と呼ばわり、「斧」はすでに「木の根元」に置かれていると叫び、差し迫る神の「裁き」を人々に向かって呼びかけます(3:7-14)。徴税人に対しては「規定以上の者は取り立てるな」と言い、兵士に対しては「だれからも金をゆすり取るな、だまし取るな、自分の給料で満足せよ」と言います。古の預言者たちがそうであったように彼の時代の社会全体に向けて神様による公正な支配の遂行を呼びかけました。ヨハネの燃えるような預言が民たちに要求する厳しい教えは神様の「慈しみ」によるものでした。神様の裁きには正当な怒りがあります。怒りのうちにも、御自分の民に対する「慈しみ」があります。人間は怒る時しばしば自分の怒りに不当な感情を上乗せします。正しく怒ることはなかなかに難しいことです。しかし神様の怒り・神様の裁きには「正しさ」があります。神様は人間をその尽きることのない「慈しみ」のうちにお叱りになるからです。人間を正しく導く神の愛をそこに発見することができるからです。ヨハネが象徴する旧約聖書の意義とは「裁き」の内にある神様の「慈しみ」を明らかにす

ることでした。

洗礼者ヨハネを通してはたらく神様の「慈しみ」は、彼が民たちに向けて語った主イエスに関する予告のうちにはっきりと表されます。ルカによる福音書3章15節以下には次のようにあります。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼を授ける。」―ヨハネは民に厳しい裁きを語る「預言者」というだけでなく、民の罪と恥ををそそぐ「洗礼者」でした。ヨハネ自身に罪を赦す権威や力はありませんでした。しかし少なくとも、私たちにまことの罪の赦しをお与えくださる主イエス・キリストを予告する洗礼者でありました。使徒言行録に記されたペンテコステの出来事が主イエス・キリストによる「聖霊と火による洗礼」の出来事を伝えます(使徒言行録2章)。

ヨハネは「火」のイメージによって裁きを語る激しい預言者であるとともに、「水」によって民の罪を洗い清める洗礼者でもありました。ヨハネを通して働く神様の「慈しみ」はまさに彼のその人物描写の内に巧みに示されていると言えます。洗礼者ヨハネを扱った芸術作品としては、十字架上の主をゆび指すグリューネヴァルトの画が有名です。クリスマスの主イエスに先立ち生まれたヨハネの“ゆび”は、「裁き」の先にある神様の「赦し」を指し示します。待降節のクリスマス物語として、私たちが洗礼者ヨハネの生誕物語をお聞きすることの意味がそこにあります。洗礼者ヨハネに目を向けることは彼が指し示す“ゆび”の先を見つめることです。主を待ち望むこの季節、洗礼者の勧めに従って「罪を悔い」、「洗礼」から始まる私たちの赦された命を見出つめたいと願います。

祈り　天の父なる神様、待降節第3主日主日礼拝に感謝いたします。洗礼者の勧めに従い、私たちもまた到来する神様の正義を前に心を静める時をもたせてください。心を静め、希望と期待のもとに主イエス・キリストを待ち望むことができますように。洗礼者が指し示す“ゆび”の先、現在のコロナ禍の内に示された試練の火の先にある、神様の豊かな「慈しみ」を見つめることを得させてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

祈　祷(各自、自由にお祈りください)

祈祷課題　ウイルスの不安の中にあって祝福された季節を過ごすことができるように
教会学校のクリスマス礼拝、子どもたちとそのご家族の健康を覚えて
クリスマスの受洗者を覚えるとともに、私たちに与えられている洗礼を感謝して

讃美歌　９７　朝日は昇りて　夜を照らせり
献　金

頌　栄　５４４
祝　祷

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし　あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて　あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。　　アーメン